第 43 回　ミスタープロ野球「長嶋茂雄」（広報まつざき 令和７年７月号掲載）

６月３日、野球界のスーパースターがこの世を去りました。子どものとき、テレビの向こう側で大活躍する姿に憧れ、華麗なプレーをまねしたものでした。訃報や特集が組まれたテレビ番組では、その人柄に触れられていて、野球界だけにとどまらず、接点のあった一般の方々も口をそろえて「気さくで優しく、有名人なのに偉ぶらず、同じ目線で接してくれた」と、多くの方がその人柄、人間力に敬意を表していました。元阪神タイガースの掛布雅之氏は、当時憧れていた長嶋さんの背番号「３」と王さんの背番号「１」を背番号にしたという逸話が残されています。弔辞を読んだ通称ゴジラの松井秀喜氏がメジャーリーグに挑戦するときには、日本のプロ野球の発展と松井氏のメジャーへの挑戦希望の狭間で苦しい胸の内だった末に、松井氏の気持ちを優先したエピソードなど、その人間味あふれる素顔に魅了されてきました。人として生まれてきたからには必ず別れは付きものです。与えられた時間を大切にし、長嶋茂雄氏のように、関わる多くの方に笑顔の花を咲かせられるよう生きていきたいものです。